

米麦作に関する大型機械作業体系の経営的評価

内 田 昭 修

(福岡県農業試験場)

UCHIDA, A.

Evaluation of Farm Management Introduced Large - Size Farm Machinery in Rice and Wheat Culture.

水田作総合実験農場における実験成績を素材として、水稲作については慣行移植体系と部分的に大型機械を利用するいくつかの段階的移植体系、および大型機械利用を前提とする直播体系を、裏作麦につ

いても慣行小型機械体系、部分的に大型機械を利用する段階的いくつかの体系、および大型機械一貫体系をそれぞれ設定し、これらの体系間の経営的有利性を試算して検討を行なった。

米麦作における大型機械利用段階別体系の経営的評価に関する試算結果 (10 a 当り)

作物別 体系別 評価指標	水 稲 作				麦 作					
	移 植 体 系				⑥大型機械	①慣行小型	②収穫作業	③耕起・整	④同左にさ	⑥大型機械
	①慣行小型 機械体系	②収穫作業 のみを大 型で行な う体系	③耕起・代 かきと取 穫を大型 で行なう	④同左にさ らに乾燥 機すりを 大型で行 なう	利用によ るたん水 直播	機械体系	のみを大 型で行な う	地と収穫 を大型で 行なう	らに乾燥 機すりを 大型で行 なう	一貫体系
粗 収 入 料	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	12,480	12,480	12,480	12,480	12,480
概 算 経 営 費 料	12,550	14,050	16,150	18,150	20,200	2,760	5,260	7,260	8,290	9,850
概 算 所 得 料	67,450	65,950	63,850	61,850	59,800	9,720	7,220	5,220	4,191	2,630
同上の小型体系化 (%)	100	97.8	94.7	91.7	88.7	100	74.3	53.7	43.1	27.1
所 要 労 力 時	105.0	69.5	64.7	59.6	41.3	70.6	43.2	39.7	35.9	13.8
同上のうち雇用時	27.0	15.0	15.0	15.0	16.0	—	—	—	—	—
自家労働 ¹ 時間当り 概 算 所 得 料	865	1,210	1,285	1,387	2,364	138	167	131	117	191

注 ①各体系とも水稲作では 10 a 当り 600 kg、麦作では 240 kg の収量を前提として粗収入を算出した。

②概算経営費は大型機械の利用料 (三浦町における請負作業料金)、肥料、農薬、除草剤、雇用労賃などの直接費用のみを計算した。

③水稲作では移植体系における田植作業、大型機械を利用しない収穫作業、直播体系におけるヒエ取り作業にそれぞれ一定の雇用労力を要したことを前提とした。

上表によると、水稲作、麦作を問わず機械化が高度に進んだ体系であるほど概算所得が漸減するが、麦作の減少率は非常に大きい。所要労力の点ではコンバインの利用による省力効果が顕著にみられる。そのため労働1時間当り概算所得は、コンバインを利用する体系②において水稲作・麦作ともに急上昇している。

紙面の都合で試算諸表を省略したが、この研究によって結論的に問題になったのは、水稲作における移植と直播の比較および麦作における低収性と機械化の問題であった。すなわち、水稲作においては移植体系であっても収穫にコンバインを利用したり、さらに耕起・代かきやその他の作業に大型機械を利

用することによって、省力の点では直播体系に接近することができるので、初期生育期間における直播技術のきびしさが直播の普及を阻害している。

麦作は収益が低い作物であるから、料金制により大型機械を利用するときは、その負担に耐えることができない。そのため実験農場における麦作は、低い労働報酬を覚悟の上での家族労作経営による (とくに老人や婦女子などの) 消極的な労働対象として存在している。しかし、大型機械が農家の共同経営体で管理運用されるような利用組織が実現すれば、麦作に限らず水稲やその他の作目の機械化に対する評価は変わってくることになる。ただし、麦作の低収性は最後まで問題として残されると思う。